

城南の風

この会誌に記載の情報は城南まちづくり協議会ホームページにも掲載されています。

編集・発行 城南地区まちづくり協議会総務部
丹波篠山市小枕 城南コミュニティセンター
TEL: 079-506-0955 FAX: 079-506-0956
ホームページ <http://www.jounan-sasayama.jp>

年頭のご挨拶

城南地区まちづくり協議会 会長 西潟 弘

新年あけましておめでとうございます。城南地区のみなさま本年もよろしくお祝い申し上げます。

令和2年を迎え城南地区まちづくり協議会が発足して12年、城南地区ふるさと自立計画、策定から間もなく10年になります。

【城南地区のまちづくりのテーマ】

“みんなが楽しく暮らせるまち”豊かな自然と歴史文化の中、農業を中心に新しい産業が生まれて活気があり、子どもからお年寄りまで、みんなで楽しく暮らせる「城南地区」を目指します！ 将来像と活動内容が示されました。

具体的に、ふるさと自立計画とは、篠山市（現丹波篠山市）の将来像を「人・自然・文化が織りなす食と農の都」として、人と自然と文化が共生する「農の都」のまちづくり、丹波篠山の特産などを生かした活力ある「農の都」のまちづくりを基本理念としています。

また、市総合計画のまちづくりの基本方針には「市民が主役、市民が主体でつくるまち」を主要な方針の一つとして明記されています。地域においては、それぞれの地域の将来の姿を描き、それを実現するために、誰が、何を、いつまでに、どんな資源を使って、実践したらいいのかをまとめたものが「城南地区ふるさと自立計画」です。

城南地区を範囲とし、10年後の地域の将来像を実現するために、取り組みとしては、すぐに取り掛かる、中期的に・長期的に取り掛かることに区分し、いつまでにやっていくのかを明確にする。地域で出来る事は地域主体で、専門知識やノウハウが必要となれば様々な方との協働で、行政がしなければいけないことは行政主体で、役割分担を明確にする。

また、アンケート調査の実施や、ワークショップでの意見を踏まえ、まちづくりの主要課題を整理します。まちづくりに向けた活動方針と具体的な活動内容の実現に向け、まちづくりに取り組んでいきます。と結んでいます。

令和2年は実施内容の点検・評価等をもとに、本計画全体の進捗状況を確認し、次の計画作成、活動内容検討を進めてまいりたいと思います。城南地区“みんなが楽しく暮らせるまち”を目指すため城南地区皆様のご協力をお願いいたします。

グラウンドゴルフ大会

令和元年11月24日(日)

9時からグラウンドゴルフ大会が晴天の下、城南小学校グラウンドで開催されました。当日参加チームは団体10チームと個人8人の団体と個人の混合で12チームを編成し2回行いました。いずれのチームも日ごろの農作業の疲れも忘れ今まで培ってきたグラウンドゴルフの技術を如何なく発揮し楽しい日を過ごしました。

成績は次ページのとおりです。(敬称略)

【団体の部】

- 1位 小枕
- 2位 北
- 3位 真南条上

【個人の部】

- 1位 大森三千子(小枕)
- 2位 尾崎幸子(小枕)
- 3位 小林 豊(真南条上)

またホールインワンは16人で内2人は回ホールインワンで日頃の成果が発揮されました。

城南地区文化祭、収穫祭

令和元年11月17日(日)

13時より文化祭及び収穫祭が城南小学校体育館で開催されました。

【文化祭】(文化部主催)

文化祭ではまず最初に女性コーラス「ゆうゆうゆう」による合唱で「愛燦燦・真っ赤な太陽」、陽翔会3名による日本舞踊「京の四季・助六さん・恋紅葉」、井ノ上ハーモニカクラブによる演奏「里の秋・鐘の鳴る丘・上野駅」、恵会による三味線で3名の方が「白雲の城・八上城・ああ篠山城」を、浜田氏によるエレキギター演奏され、日頃練習を積まれた成果を発揮されていました。そして最後に参加者全員でもみじとふるさとを合唱しおおいに盛り上がりました。

【秋の収穫祭】(産業振興農業部主催)

恒例の農産物品評会が行われ、各集落から農業者が丹精込めて育てられた農産物が出品されました。黒枝豆の部は12点、山の芋の部は11点、秋野菜の部は白菜や大根など15点と参考品として珍しい山の芋の2種類計47点が出品され、3部門ごとに審査し、優秀者に表彰状と記念品が贈られました。近年、夏期の平均気温は上昇傾向で、異常気象等影響でご苦労されたにも関わらず、特産黒枝豆や山の芋そして各種野菜の立派な農産物が出品され審査をし、秋野菜については即売されました。各部門の受賞者は以下の通り(敬称略)

	まち協会長賞	自治会長会会長賞	JA丹南支店長賞
山の芋の部	西山幸治 (小枕)	佐圓茂雄 (宇土)	堀本雅夫 (北)
黒枝豆の部	塚本逸男 (野中)	畑中源文 (小枕)	本庄 巧 (真南条中)
秋野菜の部	佐圓正樹 (宇土)	佐圓茂雄 (宇土)	酒井喜久子 (栗栖野)



成徳ふれあいマルシェ

令和元年10月19日(土)

成徳ふれあいマルシェは10年前から都市と農村交流の一環として毎年7月から12月にかけて、月1回神戸市灘区の「六甲道南公園」広場で開催していましたが、諸般の都合により今年度から10月に1回のみとなりました。

今年は10月19日(土)実施。特産の丹波ささやま黒枝豆や莢豆、丹波栗、葉物野菜、加工品として黒豆味噌干し柿など多くの農産物を出品。開設10時には多くの消費者が訪れ、枝豆は約30分で完売。午後2時には大部分の品物が売れ好評のうちに閉設しました。年1回ですが、来年も継続する予定です。

なお成徳との交流事業の田植え、デカンショ祭り、稲収穫については従来通り実践しています。

リサイクルバザー

令和元年9月22日(日)

今年も体育大会は中止になりましたが、まち協(文化部)主催のリサイクルバザーが9月22日(日)城南コミセンで盛大に開催されました。

今年の主な出品物は洗剤やタオル、そして食器や衣類など12自治会より多くの品物を提供していただきまして有難うございました。

12時30分開始で多くの方々が入場され、一時はごった返しながらお買い上げいただきました。開始1時間前から並んでいた女性にお買い上げ後お話を聞くと「日常生活に役立ち、良いものを頂いて助かります」とのことでした。開始後約30分で大部分の品物はお買い上げいただきました。



今年の売上金額は昨年度以上となり、まち協の事業に有効に活用させていただきます。ご出品願った方々及びお買い上げいただいた方々のご協力に感謝申し上げます。

成徳を迎えての稲刈り体験

令和元年9月8日(日)

成徳ふれまちとの交流事業は、平成21年から始まり、11年目を迎えます。恒例の稲刈り体験、予定通り9月8日(日)に行いました。幸い台風が前日に日本海に通り抜け、打って変わって真夏のような晴天のもとでの開催でした。

女性の料理スタッフは、前日の仕込み、当日の食事づくり、男性スタッフは、さつまいも畑のつる切り、マルチシートの撤去、昼食のテーブルの設置など協力していただきました。

10時過ぎ、成徳から大人子ども合わせて約75名が大型バス1台とマイカー数台でアグリステーションに到着しました。早速、圃場の提供とお米作りの指導をいただいている野中大西様宅の圃場に向かいました。5月に田植してから生育状況と刈取り作業の説明をしてもらい、鎌で稲刈りの作業、刈った稲を束にくくる作業、それを稲木にかける作業など暑い中、汗をかき奮闘し、3畝(100坪強)の稲をほぼ刈取り、昔の農作業の大変さを体験してもらいました。(4ページへ)

(3ページから)

成徳の女性にも早出で配膳の手伝いをしてもらい、12時ごろから昼食が始まりました。枝豆など3種類のおにぎり、丹波篠山産の野菜の天ぷら、ジャガイモのピザ、具たくさんの豚汁、縞ウリ（ドイツウリ）の漬物など、地元の野菜をふんだんに使った手作りのお昼ご飯は、とても評判がよく、楽しみに参加する人も多いようです。

午後のさつまいも掘りは、成徳のお父さん達にスコップで少し掘り起こしてもらい、子ども達は、さつまいもを見つけさつまいも掘りを楽しみました。

このまちむら交流、成徳の役員さんによる行事の案内・募集、参加の送り込み、城南の女性により食事づくりのお蔭で続いていることに改めて感謝であります。皆さんにお礼を申し上げます。



「お香づくり」を体験

令和元年8月25日（日）

8月25日、城南地区まちづくり協議会産業振興農業部（堀井聡部長）は、恒例の視察研修を行いました。今年の視察先は、日本の線香・お香総生産量の7割を占める淡路島で、11自治会から24名が参加しました。

線香・お香の産地淡路市のテーマパーク「パルシェ香りの館」では、世界の香りの文化や歴史等の展示を見学したほか、体験コーナーで「お香づくり」に挑戦しました。

午後は、西廻り（日本海）航路で交易する廻船問屋として江戸時代に活躍した高田屋嘉兵衛の功績等を紹介した洲本市の高田屋顕彰館・歴史文化資料館を見学しました。高田屋嘉兵衛は司馬遼太郎の長編小説「菜の花の沖」の主人公で、北方の開拓やロシアとの紛争を解決した事でも知られています。

